



東北大学

東北大学 広報課

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

tel: 022-217-4816 Fax: 022-217-4818

URL: <http://www.tohoku.ac.jp/>

報道機関各位

平成18年7月20日
東北大学多元物質科学研究所

東北大学公開セミナー
～ 発見とセレンディピティー ～ 開催について

<概要>

7月29日(土)午後2時から、片平キャンパス会議棟2階大会議室(材料・物性総合研究棟隣)において、東北大学公開セミナー ～ 発見とセレンディピティー ～ が開催されます。

Serendipityという言葉は、イギリスの初代首相 R. Walpole の息子で著述家の Horace Walpole という人によって 1754 年に友人に宛てた手紙の中で提案した造語です。この言葉の由来は "Three Princes of Serendip" という童話に基づいていて、特殊な能力に対して用いられ、単に「偶然宝物を発見する能力」のように解釈される場合もありますが、Serendipity には幸運とともにある種の能力、あるいは努力が必要とされています。本公開セミナーではそんな研究者をお呼びしました。

自然界では海星(ひとで)や五弁の花などがありますが、結晶学の世界では五回対称性・回転軸をもつ構造物質は、絶対にあり得ないということが、一世紀近くの長い間の常識でありました。この常識を覆した大発見を成し遂げたイスラエル工科大学ダン・シュヒトマン (Dan Shechtman) 博士をはじめ、「発見とセレンディピティー」について先駆的な研究をされており、かつ先導的立場で活躍されている3人の研究者の講演が予定されており、講演者並びに講演の内容は、次のとおりです。

① 「準結晶の発見(同時通訳付)」

Prof. Dan Shechtman

イスラエル工科大学、東北大学ユニバーシティプロフェッサー

② 「Bi系酸化物超伝導体の発見」

前田 弘 博士

独立行政法人 物質・材料研究機構 特別名誉研究員、前東北大学教授

③ 「科学の発見におけるセレンディピティー」

竹内 伸 博士

※ 入場無料、関心のある市民県民の方の参加も対象としております。

(問い合わせ先)

東北大学多元物質科学研究所

蔡 安邦 教授 TEL 217-5204